

## クジャクチョウ

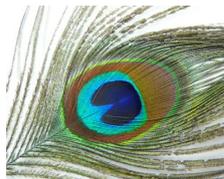
天気良好。早めに家を出て澄川森林の作業道を歩いていました。足元から蝶が飛び立ち近くにまた降り立ちました。抜き足差し足で近づき画像をゲット。美しいクジャクチョウでした。画像の記録は2007年5月5日8時26分でした。

はじめての出会いには昭和59年(1984)8月27日でした。当時は時点で47歳、東京に住んでいたため、北見市の家人の実家に寄った際、裏庭で出会ったのを捕まえて、その美しさに感動のあまり色鉛筆でスケッチをしたのでした。ところが翅裏はヒオドシチョウ等と同じように黒味がかかっていて、美しくはなく、殆ど黒に見えます。

分布は極めて広いようで、ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯にかけてヨーロッパ、中央アジア、中国、朝鮮半島、樺太、シベリアにわたります。日本では滋賀県より北で高山帯から北に向かって徐々に低地にうつり、東北から北海道では平地に出現します。

幼虫の食草はクワ科のカラハナソウ、イラクサ科のホソバイラクサ、エゾイラクサ、ニレ科ではハルニレとかなり雑なようです。ここでもイラクサができました。この植物はいろいろな蝶を育ててくれているのは誠に有難いことです。幼虫の姿もコヒオドシのそれに似ていますが、クジャクチョウの方が黒さが濃い感じです。

命名の由来は目玉模様それも後翅のものがクジャクの羽の模様に見えることからのようですが確かに似てはいます。英名も peacock だそうです。また、学名の一部に geisha とあります。命名者が日本



日本の芸者の美しい装いに似たイメージだったのでしょいかね。成虫で越冬します。撮影は出来ませんでした。ルリタテハ

も澄川で見たことがあります。キタテハ、エルタテハ、ヒオドシチョウなど近しいタテハチョウ達は早春に出現しますので、雪解け時期には期待で胸がふくらむのです。

